

先行き不透明な中でも、積極的な事業展開で収益を確保

平素より、株主・投資家の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2012年3月期は、震災の影響を受けて営業赤字でスタートしましたが、夏以降に回復基調が鮮明となり、需要に応じた大型機の投入等を積極的に実施する一方で、コスト面でも期初からの緊急対策を継続して実施した結果、7～9月期においては過去最高水準の営業利益582億円を確保することができました。第2四半期累計では、営業収入7,048億円、営業利益501億円、経常利益375億円、四半期純利益228億円となりました。

今後も、経済の先行き不透明感が残るものの、需要回復の波を的確に捉え、依然として弱含みの訪日需要も含め、積極的な需要喚起策を講じていきたいと考えております。

また、日本時間の9月26日には、本誌6～10ページでもご紹介しておりますボーイング787型機(ドリームライナー)を世界に先駆けて受領しました。11月1日に国内線定期便に投入し、2012年度末までに20機、最終的に合計で55機の受領を予定しております。今後も卓越した快適性と高い経済性を兼ね備えたこの機材の特長を最大限活用し、国際線の新規路線開設等も積極的に進めていく所存です。

今後予想される競争環境の変化を前に、安全性と品質のさらなる向上や収益力強化、財務体質改善等、経営基盤の強化にANAグループ役職員全員で取り組んでまいります。

最後になりましたが、9月6日に発生した当社140便における不安全事故につきましては、ご搭乗のお客様はもとより、株主・投資家の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことを、ANAグループを代表して深くお詫び申し上げますとともに、再発防止は当然のこと、安全性の向上と信頼回復に向け、ANAグループを挙げて取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2011年11月

代表取締役社長 伊東 信一郎